

# くりこま応援の会通信

## 山にカエル!

平成 20 年 11 月 7 日 くりこま応援の会発行 12 号 発行者:ハートネットふくしま&とちぎボランティアネットワーク  
〒989-5301 宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎八日町 33-1 TEL:0228-45-2910 E-mail:[kurikomakouei@yahoo.co.jp](mailto:kurikomakouei@yahoo.co.jp)  
HP:<http://www.geocities.jp/kurikomakouei/>

## 雪囲いに全国から支援を コンパネ・垂木緊急大募集!

あの6月14日の地震発生から5か月がたとうとしています。被災時は初夏で、夏の暑い時期を避難所での生活を余儀なくされていましたが、今はすでに晩秋で栗駒山は初冠雪もあり、耕英地区はまもなくすっぽりと雪に包まれます。耕英地区の方々は、秋のイベントシーズンに各地のイベントに出店し、イワナを焼き、復興いちごジャムや高原大根、かすみ草、「山にカエル」ステッカー等を精力的に販売し、少しでも現金収入を確保しようとする一方で、山の家屋やハウスの片づけ、来年の作付けの準備、雪への備えを進めてきました。これまでの年であれば、家屋に積もった雪は中で生活している熱で積もり方も少なくなり、また、毎日定期的に除雪も可能でしたので、雪がそれほど大きな脅威とはなりませんでした。この冬は雪の脅威にさらされています。山にあがるのが制限されている中で、除雪が思うようにできなければ家屋が雪で倒壊してしまう懸念が高いのです。被災個所に十分な補強等がなされていないものもあります。そのために、早急に雪囲いを進めなければなりません。しかしながら、例年以上の対策を進めるためには資材も必要となりますし、これからの短期間で対応するためには労力も確保しなければなりません。



そこで、資材の提供や資金の提供、そして労力の提供をぜひ皆さんにお願いしたいと考えています。ぜひ、周囲の方々にもお声をいただき、支援の輪を広げてください。詳しくは応援の会のホームページをご覧ください。なお、労力の提供については、詳細が確定した段階でお知らせいたします。被災者の方々の不安や苦しみ、雪害で増すことがないよう、皆様の温かなご支援をお願いいたします。(君)

### 地震被災地「雪囲い資材」大募集！コンパネ、垂木をください。カンパも募集。

6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」で大きく山や道が崩れ、未だ避難指示が解除されない栗駒山の中腹、標高600mにある宮城県栗原市栗駒耕英地区。ここは冬季積雪2mにもなります。地震でダメージを受けながらもせっかく残った家があります。いつもなら、住んでいる住民で雪下ろしをやっていましたが今年は山に誰もいないので例年より嚴重に雪囲いをしなければなりません。そこで、くりこま応援の会は耕英地区の住民を対象に雪囲い用、コンパネ、角材(たるぎ)(3cm×4cm×4m)を提供しようと考えています。

現在、必要数はコンパネ300枚、角材(たるぎ)300本程度。現物での提供の場合は現地までの輸送のご協力もお願いします。なお、できれば運送コストを考えるとコンパネ、角材(たるぎ)購入金相当額をご寄付くださってもOKです。ぜひよろしくお願いします。 ※参考 コンパネ1枚=1300円 垂木一本=500円

募集期間: 11月10日ごろまで(提供くださる方は事前に必ずお電話ください。電話 0228-45-2910・菅原)

雪囲いカンパ募集

お近くのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口で、払込用紙に送金額と料金を添えてお振込みをお願いします。その際の振り込み手数料は、申し訳ありませんがご負担をお願いいたします。払込み機能付きのゆうちょ銀行のATMでは、現金のほか、送る方の通常貯金からの払込みも可能です(通帳またはキャッシュカードが必要です)。宜しくお願いいたします。 くりこま応援の会 住所:宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎八日町 33-1 電話:0228-45-2910

ホームページ: <http://www.geocities.jp/kurikomakouei/event.html/>

# 人・輪・つながり チェーンソーをおたまに持ち替えて

11月2日のカレーの日。当日は応援の会に耕英地区以外の方の顔がありました。

11月1日から2日に宮城県内の白石市南蔵王山麓で「DRT2008」が開催されました。DRTとは、被災直後の被災地での救援活動に対する技術的な訓練を意味し、当日は倒壊家屋や水害被災地での活動を想定したチェーンソーの取り扱いや、倒壊家屋のジャッキアップの方法、ブロック塀除去でのエンジンカッターの使用方法等について学び、地元宮城県をはじめとして東日本から約30名が参加しました。企画から運営まで中心となって活動いただいた白石市在住の黒澤さんや、海外でも活躍されている長野の吉村さん、そして被災地には必ず姿がある栃木の桑原さん、日帰り強行軍の小林さん等、被災現場経験が豊富な講師陣の方々には大変お世話になりました。目の前に迫る蔵王連峰の山並と満天の星空、眼下に見下ろす白石の市街地の夜景、そして、多くの災害ボランティアとのつながりがありました。共催はMDRC(みやぎ災害救援ボランティアセンター)さんで、今後の耕英地区支援に対してもご理解をいただいています。また、参加者の皆さんからは「山にカエル」ステッカーもたくさん購入いただき、中にはイワナを宅配便で購入できないかとのお問い合わせも頂き嬉しい限りでした。

そして、DRT終了後に数名の参加者の方が応援の会へ。カレーの仕込みからお手伝いをいただきました。応援の会活動にご理解とご協力をいただきました皆さん、大変ありがとうございます。これからもともに支援の輪を広げていきましょう。ここでカレーの日当日のオールキャスト



山本さん

尾澤君



仙台の青木さん

をご紹介させていただきます。まずは、「尾澤君」。当日に新潟へ行っている菅原さんに代わって最高責任者に。神戸から応援の会に約1ヵ月間の支援に来ていただきました。残念ながら11月5日で兵庫に戻りました。仙台の「青木さん」。オールとちぎにも青木さんがいますので、お間違いないように。いつも仙台から駆け

つけていただき、ありがとうございます。青木さんの手料理おいしいですよ。岩手県の「菊池さん」。岩手からたびたび応援に来ていただいています。この日もDRT終了後に応援の会に。その誠実な人柄がにじみ出ている山好き男です。山形県の「遠藤さん」。夜勤明けにDRTの2日目に参加し、ジャッキアップの講師も務めておられました。中越地震でも活動さ



高田さんと遠藤さん



菊池さん

れています。神奈川県「高田さん」「渡邊さん」。神奈川からお二人でDRTに参加し、応援の会へ。被災地での活動歴もあり、地元では来年1月の防災イベントの準備も進めておられます。富山県の「山本さん」。被災地での炊き出し活動を行っているヤマヤ物産の社長さんで、DRTでは会社の製品である炊き出し用の器具で夕食と朝食を準備いただき、仮設シャワーも設置してくれ



渡辺さん

ました。やはりDRT終了後に応援の会へ。そして、いつも兄弟でお手伝いいただく地元のアイドル的な仲好し“たっちゃん&ゆうき君兄弟”。また、地元栗原市内の築館からは心強い助っ人のお二人「my dream」というボランティア団体の遊佐さんと狩野さん。(写真がなくすみません) 最後に、オールとちぎの青木と君嶋はカレーの仕込み終了後に、一足早く帰らせていただきました。復旧・復興の中心は耕英地区の皆さんですが、その活動を支援し、明日への一步を踏み出す背中をそっと押してあげるのは支援をされている多くの方々の想いです。そして、その一步を踏み出すためには、行政や関係機関のきちんとした体制と支援策が不可欠です。耕英地区の方々の切実な声がきちんと反映され、1日も早い復興がなされることを切望してやみません。これから寒さが厳しさを増します。耕英の皆さん、風邪などひかないようご自愛ください。(君)



## 「くりこま応援の会ボランティア活動支援金」募集

郵便振替 00360-4-38111 名義:とちぎボランティアネットワーク ※通信欄に「くりこま」と明記してください。